



# 会津放射能情報センター NEWS

住所：〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36 Tel & Fax：0242-23-9401  
開館日：水木金曜 10 時～16 時 第 1, 3 土曜 10 時～12 時（国民の休日は除く）  
E-mail：info@aizu-center.org 公式 blog：http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/  
Web：https://aizu-center.org



2023 年 12 月 25 日発行

第 44 号

会津放射能情報センター

検索

## 「これから どこの魚を食べさせたら いいのでしょうか？」

会津放射能情報センター代表 片岡輝美

会津放射能情報センター第 13 回総会後に開かれた学習会で、子育て中のお母さんがこのように問いました。残念ながら、この問いに「〇〇の魚なら問題ないだろう」と答えられる人はいない、いのちに誠実に向き合う科学者や専門家であればあるほど、答えられないと思います。なぜなら放射性物質の被ばく影響は「分からない」ことがたくさんあるからです。2011 年 3 月に起きた東電福島第一原発核事故によって放射能汚染が広がる環境となり、私たちは子どもに何を食べさせたらいいのか、外で遊ばせていいのかなど不安が増すばかりでした。この汚染状況を把握するため、会津放射能情報センターは 2011 年夏に空間線量測定器を入手し、同年 11 月から GDM-15 を導入し食品などの測定を開始。私たちは 12 年に亘る測定結果から、どのような環境に汚染が溜まりやすいのか、何に気をつけ、どのように被ばくを軽減すればいいのか…などの知恵や知識を蓄積してきました。

□

しかし、2023 年 8 月 24 日から始まった東電福島第一原発の「ALPS 処理汚染水」海洋投棄で、私たちは新たな難しい局面に立たされています。

陸地のものと違い、魚などは海中を移動するため、環境から汚染状況を予想することはできません。情報センターの GDM-15 が測定するのはガンマ線であるため、ベータ線を発するトリチウムを測定できません。いわき市で活動する認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちねですら、時間をかけないとトリチウムの正しい測定はできないのです。（よって、東電が放出直後に発表しているトリチウム測定値は下限値も高く、大変大雑把なものとなります）。

冒頭のお母さんの問いは 13 年前の不安を彷彿とさせ、どこから始めたらいいのか…と、私は振り出しに戻されたような感覚を覚えています。それでもやはり、測定できるものを測り続けることが活動の

基本です。海産物の数値も確認し、検査結果の読み方と情報を積み上げていくことが第 13 期以降の大切な働きになっていくと考えます。

一方、ひとつ私が最近考え始めていることがあります。それは福島県で水揚げされた海産物が安全かどうか注目が集まっていますが、他県で水揚げされた海産物は注目しなくていいのか…ということです。福島県やいわき市、小名浜魚市場では独自の検査を続けています。その数値が信用に足る値かどうかの議論は脇に置き、私が気になるのは福島県以外で海産物の測定を行っている都道府県はどのくらいあるのかみなさんの食卓に上がる海産物にも目を向けなければならないのではないかとということです。

核事故直後やその後の汚染水の流出により海は酷く汚染されました。そして海洋投棄が始まった今、殊更に福島県産でないから大丈夫ということにはならない、いよいよ誰もが自分のために海産物などの食材の安全性を確認する時代となったと思います。もし海産物の放射線測定を行っている自治体があれば、情報共有のためにご一報ください。

□

今秋、会津若松市内のスーパーサイエンスハイスクール指定校の県立高校で、経産省資源エネルギー庁・木野正登参事官が「ALPS 処理水の処分に関する対応について」と題して 40 ページの詳細な資料で「ALPS 処理水放出」の安全性を講義したそうです。

受講したひとは情報センター会員さんのお嬢さんでした。彼女は「（木野さんは）嘘は言っていないかもしれないけど、本当のことは言っていない。いくら海水で希釈したって、流す放射性物質の総量は変わらないことを私達は皆知っている」と家族に報告。理数系を得意とする彼女たちは科学的に思考し、都合の良いことだけを押しつける国の虚しい姿を見抜いていると思いました。

またもや「分からないこと」が目の前に現れ、確かに 13 年前を思い出します。しかしあの時と全く違うことは、全国に共に悩み声を上げる仲間がいる、そして頼もしい次の世代もいることです。第 13 期も私たちの後に続く人々のいのちと人権が大切にされる社会を各地からつくり出していきたいと思います。

# これまでの取り組みと今後

## 内科医 山崎知行

第13回総会後に学習会を開き、山崎知行医師にお話していただきました。要約を掲載します。

### ■チェルノブイリ原発サイトを訪れて

1984年、和歌山県岩出市で開業しましたが、その2年後チェルノブイリ原発事故が発生。大きな衝撃を受け、そこから臨床医として核の問題に取り組み始めました。事故から20年後を境に私はこれまでチェルノブイリを4回訪問し、現地の医師と交流してきました。

チェルノブイリ原発事故によって放射能汚染が拡散。驚いたことに原発サイトから200～300キロ離れたところでも雨や雪によって高濃度汚染地となりました。事故から22年後、原発サイトや5キロ離れたプリピャチの町も訪問。廃墟となった街並みにはまだ汚染が残っています。

ベラルーシの首都・ミンスクの北に、ドイツやベラルーシなどによって作られた保養施設「希望21・ナデジダ」があります。ベラルーシの国の事情で、この施設の招待がなければ私たちのベラルーシ訪問が許されません。歓迎はアロマ治療であるハーブティーから始まります。温熱療法や心理療法などで子どもたちを多方面からサポートします。また学校の勉強をする教室だけでなく、音楽や芸術など子どもたちが積極的に取り組めるような設備も整っています。「日本の部屋」もあり、支援団体によって日本文化に親しめるようになっています。プレゼントした会津の絵ろうソクも飾られています。

### ■世代を越える健康被害

ウクライナ国立放射線医学研究センター・ステパノ博士は事故直後、子ども達に激しい疲労、精神的に不安定、鼻血、頭痛、めまい、不眠や吐き気などさまざまな症状が見られたと報告しています。保養所での治療法は前述のものや水に親しむアクアセラピー、フィットセラピー（植物療法）、リフレクソロジー（反射療法）や鍼灸も活用されています。ウクライナ全国には1000以上の公的保養施設があります。

2011年にウクライナ緊急事態省が発表した「慢性疾患のある子どもと健康な子どもの割合（ウクライナ）」によれば、事故後25年経った2008年では8割の子どもになんらかの慢性疾患があると示されています。これは一度でも受診した子どもも入っているため大きな割合となっていますが、いずれにしても子どもたちに免疫力低下の症状があると考えられます。

ベラルーシ国立甲状腺がんセンターの統計

(1986～1997年)では甲状腺がんのリンパ節転移は0～15歳未満570人の67.5%、15～18歳未満118人の44.1%が発症、また肺への転移もそれぞれ16.5%、6.8%となっています。ここから私たち臨床医は原発事故の放射線影響による甲状腺がんと自然発生する甲状腺がんでは「質が違う」のではないかと考えざるを得ないのです。福島県民健康調査検討委員会の初期以降に臨床医が入っていないので、この考えが取り入れられていない。よって、このようなチェルノブイリ原発事故後のデータが活かされず、福島県の子どもの発症は原発事故とは無関係だとされているのです。

アレクセイ・V・ヤブロコフ博士らがまとめた『調査報告 チェルノブイリ被害の全貌』(岩波書店)の「表5.77 リクビダートルにおける12疾患群の発生率(1万人あたり)」からはさまざまな病気を発症していることがわかります。リクビダートルとは事故炉の消化活動やその後の廃炉作業を行った、最も酷く被ばくした作業員です。今はその子ども達の健康が大きな問題となっています。

### ■放射能安全論の系譜

1990年、IAEA(国際原子力機関)は国際チェルノブイリプロジェクトを立ち上げ、笹川チェルノブイリプロジェクトのトップであった重松逸造氏(当時、放射線影響研究所理事長)が委員長となりました。またソ連側からはソ連科学アカデミー副総裁のイリーイン氏が参画。彼の「放射能被害は一般市民に知らせる必要がない」との主張は重松委員長と一致し、一般市民に不安を煽る必要はない、放射能被害は怖くない、健康被害はなく精神的ストレスが問題だという流れを作りました。重松氏の弟子である長瀧重信氏(当時、長崎大学内科教授)や山下俊一氏(当時、長崎大学付属原爆後障害研究施設教授)らは、日本の中で、特に福島第一原発事故後の福島で発言や存在を強め、日本政府の方針をリードしていくことになりました。

米国原爆傷害調査委員会(ABCC)が広島、長崎の原爆被害を調査し始めたのは原爆投下から5年経った時、つまり重症者がほとんど死亡した後から





の調査でした。しかも直接の外部被ばくのみを調査対象とし、低線量被ばくや内部被ばくは考慮していませんでした。このABCCの調査方針を受け継いだのが放射線影響研究所となります。

政府機関に関連する専門家は放射線影響研究所、放射線医学総合研究所、国際放射線防護委員会（ICRP）、笹川チェルノブイリプロジェクトなど関わりが深く、ここに放射線リスクについて異論を差し挟む余地はありません。重松氏から始まった、いわゆる権威者がリードして物事を歪めていった詳しい流れを島菌進氏が著書『科学が道を踏みはずすときつくられた放射線「安心」論』にまとめておられます。

### ■世界各地に存在する核被害

原爆製造の「マンハッタン計画」はアメリカ・ワシントン州ハンフォードで国家機密として進められました。私は軍事秘密として表に出てこないだろうが、必ず「風下の被ばく者」はいるはずだと思ってきました。長年、情報を持たず気になっていたのですが、今年、『黙殺された被曝者の声 アメリカ・ハンフォード 正義を求めて闘った原告たち』（明石書店）が出版されました。著者・トリシャ・T・プリティキンさんがハンフォード周辺の風下の地域住民にインタビューし、24名の詳しい報告をまとめました。私にとっては貴重な記録です。

ハンフォードはワシントン州の海岸から100キロ離れた砂漠にある町です。最初は3つの原子炉、最終的には9つの原子炉をコロンビア川の周辺に建てました。それらは人類初めて、人間の手によって核分裂をコントロールする原子炉となりました。原子炉内部に核分裂しないウラン238を張り巡らし、その中でウラン235に中性子を当てて核分裂を起こし、飛び出した中性子が周りのウラン238に吸収されてウラン239というプルトニウムが生まれる。これが原爆の材料になるわけです。ウランも原爆の材料になりますが、非常に多くの分量が必要になります。それに対してプルトニウムはわずか8キログラム程度で原爆が作れるため、その利点を活かして製造されました。物理的な理論を工学的に作るために幾度も核実験が繰り返され、その周辺の風下地域の住民は被曝者となっていきました。

1942年、マンハッタン計画の責任者であったレスリー・グローブス少将は、原爆投下直後の残留放射能の存在を認めてしまうと、占領下の日本へ派遣する兵士を集められなくなるとして、ハンフォード核実験の測定結果を公表しないように箱口令を敷き、マンハッタン計画は軍事機密となりました。でも実際に測定した兵士達は「多くの残留放射線はあった」

と報告しています。

1945年7月、ニューメキシコ州トリニティーサイトでプルトニウム原爆実験が行われ、8月6日広島にウラン原爆が、9日長崎にプルトニウム原爆が投下されたのです。1946年、マーシャル諸島で多数の核実験が行われ、住民は甚大な被ばく被害を受けています。竹峯誠一郎氏（明星大学教授）が継続的なインタビューや調査を行い『マーシャル諸島 終わりなき核被害を生きる』をまとめました。核実験から4年後、マーシャル諸島ロンゲラップ島の住民は帰還させられましたが、帰ると直ぐに体調を崩す住民が増えました。調査にあたったコナード医師に住民は「魚を食べたあとに具合が悪くなった」「鼻血が出た」などと訴えましたが、同医師は「そんな知見はない」とはねつけました。

今まさに初めての体験をした人が実際の症状を訴えているのに、医師や権威ある者がその訴えを否定する、こういうことが連綿として世の東西を問わず行われてきたわけです。元々の原爆被ばく調査は外部被ばくのみを対象とし、低線量の汚染地域で生活することによる低線量被ばくや呼吸や食べものによって内部被ばくしたことは全く考慮しない方法論で専門家集団は取り組んできているのです。権威ある者が被ばく被害を知らない者に対して事実とは異なることを発言しミスリードしていく、この専門家らこそが、本来被ばくをどのように捉えるべきかを分かり難くさせていると言えます。

### ■子どもを守るために私たちができること

このように分かり難くなっている世界で、私たち大人は子どもたちに何ができるのでしょうか。私は「希望21」を紹介したように、とても有用だと学んだ保養を続けていくこと、また生活者同士が信頼関係を築き、持続していくことも大切です。事実を伝えずにミスリードしていく権威者が出す公の数値だけを判断材料とせず、自分たちで測定し自分たちで判断することも大切だと感じています。会津放射能情報センターの皆さんとこれからも共に測定を続け繋がりをもちながら、子どもの心身を守っていきたくて願っています。



10月21日、第13回総会を開催。参加者は会場、オンラインそれぞれ10名でした。第12期の活動報告と決算、第13回活動計画、予算が承認されました。



# おうえんカレンダー2024原画展 & ふしはらのじこさんトーク

「12人の絵本作家が描くおうえんカレンダー」の誕生は「子ども脱被ばく裁判」の原告たちへの支援がきっかけです。同裁判の会共同代表・水戸喜世子さんのご長女晶子さんとお仲間が立ち上げた「応援カレンダープロジェクト」は、東電福島第一原発核事故被災地に思いを寄せる絵本作家さんとの出会い、「おうえんカレンダー2016」を誕生させました。

それから年月が流れ、絵本作家さんの顔ぶれも少し変わったり、再びご登場されたり…、毎年新しいカレンダーをワクワクしながら手に取っています。第一線で活躍される絵本作家さんの絵を毎月楽しめるなんて、なんと贅沢なカレンダー！と、新しい月になるとカレンダーに見入ってしまうのは私だけではないでしょう。

そして2023年11月1日から4日間、「おうえんカレンダー原画展」(共催:子ども脱被ばく裁判の会・会津放射能情報センター、後援:おうえんカレンダープロジェクト)を会津若松で開く機会をいただきました。いかにカレンダーが原画そのままに印刷されているかも分かりましたが、やはり原画が放つメッセージ、繊細な筆使い、大胆なタッチに圧倒されました。1枚1枚時間をかけて見る方、しばらく絵の前に座って楽しそうにお喋りしながら鑑賞するお二人連れ、みなさんそれぞれの楽しみ方で時間を過ごしておられました。子どもたちは「あ!この絵の人、知ってる!」「私の大好きな本を作った人だ!」と声を上げていました。

更に幸いなことに11月3日、絵本作家・ふしはらのじこさんをお迎えし「絵本で伝えたかったアフリカ」と題してお話を伺うことができました。ご準備くださったたくさんのスライドからコンゴの市場の賑わいや人々の息づかいが伝わり、ジャングルに



棲むゴリラの生態も大変興味深いお話でした。

ふしはらさんたちがコーヒーをフェアトレードする仕組みを作り、その収益でタンザニアの学校や図書館を作られた実践にも大変刺激を受けました。淡々と語るふしはらさんですから、仕組みができるまでの経緯はスッと胸に入りますが、はたと気づけば、どれほど大変で大切なことに挑戦してきたかに驚きます。

完成した図書館の前での読みきかせに興味津々の大勢の子どもたち、笑顔で絵本を開く子どもたち、そしてその子たちの周りに立つ大人たちの穏やかな表情から日々の大切な営みが見えてきます。ふしはらさんたちが現地の人々と深いつながり重ねていることを想像し心が熱くなりました。

最後には反原発、脱原発の思いも語ってくださいました。おうえんカレンダー2024の5月は上関原発建設予定地で、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の計画もある海に生息するカンムリウミスズメが描かれています。「瀬戸内海の内原風景を残す『奇跡の海』と言われている海に浮かぶ小さな小さな生きものをずっと観察し続けてきた」とふしはらさん。小さないのちを心から愛おしむ思いを私たちにも伝えてくださいました。

4日間の来場者は約90名、多くの方に原画とふしはらさんのお話を楽しんでいただきました。このすてきな機会を作ってくださいました「応援カレンダープロジェクト」のみみなさまに心から感謝いたします。



子ども脱被ばく裁判の詳細はこちらから…  
<https://kodomodatsuhibaku.blogspot.com>





## ロビン・デュピイ チェロライブ vol.5 を開催！！

「玉置浩二さんのツアーで福島に行きます！9月3日にライブさせてください！」とプロのチェリスト・ロビン・デュピイさんからセンターに連絡が入ったのは8月30日！東日本大震災直後から心を寄せてくれるロビンさんは、今回も全国ツアーの合間に駆けつけてくださいました。

当日は台本なしのぶっつけ本番、ロビン・ワールドと言うべき即興演奏が続き、その後には会場からのリクエストに答えて、G線上のアリア、Amazing Graceなどを演奏。チェロの音色が響く豊かな時間となりました。会場では『311子ども甲状腺がん裁判』へのカンパの呼びかけを行い、13,405円をお届けすることができました。次のサプライズライブも楽しみに待っています！



## 牧内昇平さん学習会のご案内

情報センター NEWS 前号に ALPS 処理の際に出るゴミの問題について寄稿していただいた、物書きユニット「ウネリウネラ」の牧内昇平さんをお招きして学習会を開催します。

「スラリーや HIC の問題を初めて知った」「とても分かり易かった」との声が多く寄せられています。この度は直接牧内さんからお話を伺います。どうぞご期待ください。

**日時：2024年3月16日（土）**  
**午後2時～4時30分**  
**会場：会津放射能情報センター**  
**オンラインも設定予定**  
**テーマ：「放射能汚染水の海洋投棄」**  
**取材から見えてきたこと（仮題）**

## センターの活動を紹介しました



喜多方市の松山公民館で行われた「一般社団法人 食・環境改善機構」さんの「放射性物質の除染に関わる学習会」の第1回、第2回にセンタースタッフが講師として参加しました。

7月1日の第1回はセンターの成り立ちや活動内容などについて、11月28日の第2回は測定を通して見えてきた具体的な対策などについて、いずれも「母親目線で見た会津の放射能汚染と「今 私たちにできること」というテーマでお話してきました。

参加者の方から次々と質問の手が挙がり、今も変わらず不安や疑問を抱えて生活している方がたくさんいることを実感しました。

### ■甲状腺エコー検査を行いました。

11月30日、生活クラブあいづ支部との共催で今田かおる医師（猪苗代町・小川医院）のご協力をいただき、甲状腺エコー検査が行われました。大変憂慮すべきことに小児甲状腺がんの発症は増えており、継続した検査が大切になってきます。今後の検査を希望される方は情報センターまでお問い合わせください。

manufacturing consent

原発事故汚染水をめぐる  
「合意の捏造」

ウネリウネラ 牧内昇平

こんなやり方がまかり通ってしまっは、  
民主主義はクラゲみたいに  
骨抜きになってしまう。

manufacturing consent  
原発事故汚染水をめぐる  
「合意の捏造」

ウネリウネラ 牧内昇平 著 / 700円

お求めは  
ウネリウネラ BOOKS  
で検索を！

<https://books.uneriunera.com>

# 福島第一原発事故避難者による 国連活動について

## Mitsuko Sonoda

私は福島県在住の日本語を英訳する翻訳家でした。2011年3月の福島第一原子力発電所の事故により、当時小学生だった子供と関西に避難しました。現在は、海外で避難生活を続けています。

### ■福島原発事故時の国際的情報格差

悪夢の原発爆発が起こり、英語圏メディアから流れてくる情報と国内報道とのギャップに愕然としました。「直ちに健康の影響はない。」とテレビで流れていた時、東京の英国大使館ではヨウ素剤が配られ、多くの国々が自国民を国外退避させるためにチャーター便を用意し、大使館を一時的に西日本へ移転させた国もありました。どうしてこんなに対応が違っているのか、何を信じたらいいのか混乱しました。原発事故という緊急事態にもかかわらず、国外の情報共有されない恐ろしさを感じました。

原発事故後、多くの人たちが原発について考え、立ち上がり、全国各地で大規模な集会やデモが開かれ、原発事故被害者たちも必死に国、東電の責任を追求する声をあげ、子どもたちに原子力産業を残さない社会への希望に繋がりました。しかし、日本政府は原発事故の責任を取らず、被害者を救済せず、原発の再稼働を始めました。そのような状況下で、国外から市民が日本政府へ働きかけができる制度を知りました。それが、国連の人権保障制度の人権理事会と人権条約機関でした。

### ■国連人権理事会

世間一般に「国連は何々」という言い方を耳にし

ます。しかし国連にはさまざまな機関が存在し、それぞれ役割が違うにもかかわらず、「国連」とひとまとめに判断されることに違和感を感じてきました。国際原子力機関（IAEA）、国際保健機関（WHO）、国連科学委員会（UNSCAR）などは、度々日本のメディアでも取り上げられますが、国連人権理事会（UNHRC）については報道が極端に少なく、世間一般の認知度も低いです。科学的根拠は時代や政治に左右されることがあると、UNSCAR 報告書の中にも書かれています。それにもかかわらず、日本では科学は人権より上というイメージが植え付けられ、更に報道機関は人権に関する報道を避けているように見えます。

国連人権理事会の制度には、「普遍的定期的審査（UPR）」と「特別報告者による特別手続き」があります。UPRは、各国の代表者が4年半ごとに国連全加盟国の人権状況を審査する制度です。

審査は、政府側、市民側による様々なプロセスがあります。その過程の一つとして、2017年第3回UPR日本プレセッションで、福島原発事故被害者として発言させていただきました。スピーチに向けて、800名以上の方達から応援メッセージを受け取りました。その中に「苦しい避難生活に耐えられなくて、もう限界だと挫けそうになっていたけど、ソノダさんが国連で避難者の声を届けてくれると知って、諦めないと決めました。」というメッセージがあり、心に刺さりました。その800名の想いの詰まったメッセージの束を手元に置きながら、各国政府代表者に向かって訴えました。その第3回UPRで福島原発事故被災者救済に関する勧告は4カ国から出ました。

その他にも、人権条約機関の社会権規約委員会、自由権規約委員会、女性差別撤廃委員会、子どもの権利委員会から勧告が出ています。それは、人権理事会のUPR勧告や報告書などと影響し合って、それぞれの勧告に繋がっています。



▲国内避難民の人権に関する国連特別報告者であるセシリア・ヒメネス＝ダマリー氏（右から3人目）と共に登壇し「2018年国内避難に関する指導原則 20周年記念 国連サイドイベント」で発言する筆者（右端）。



## ■国連特別報告者との連携

2018年6月、国内避難民の人権に関する特別報告者のセシリア・ヒメネス＝ダマリー氏が国連人権理事会で「国内避難に関する指導原則20周年記念イベント」を開催し、私もパネリストの一人として参加しました。第3回ポルトガルUPR勧告の「国内避難に関する指導原則を適用すること」に、日本政府はフォローアップすることを受け入れていたので、国際社会では福島原発事故避難者が国内避難民と認識されていました。

その後、ヒメネス＝ダマリー氏の熱意と、国内外で多くの方々の協力があって、2022年9月から10月にかけて避難者の状況を調査するヒメネス＝ダマリー氏の訪日を実現しました。そして2023年5月、公式訪日調査報告書が発表されました。「自主的か、強制的かで国内避難民を差別的に区別することを撤廃すること」など、住宅、健康、生計、教育、賠償、情報、復興復旧、その他広範囲、且つ詳細な勧告が報告書の中に書かれています。

## ■UPR最新情報

2023年1月、第4回UPR勧告が発表されました。今回は、太平洋への放射能汚染水海洋投棄に対する勧告が11、福島原発事故被災者及び避難者に関する勧告が5つ出ました。日本国内では中国と韓国のみが処理水海洋放出に反対しているイメージが強いですが、人権理事会では、核実験の被爆国や中南米の国も危惧しています。当然海は繋がっているので、海洋投棄は日本だけの問題ではないと認識されています。

同年7月、人権理事会で合計16の勧告のうち日本政府が「フォローアップすることを受け入れる」と回答した4つの勧告。

- ・特に海洋法に関する国際連合条約など、福島第一の放出計画に関する包括的な環境影響評価を含む国際的な義務を十分に遵守すること（サモア）
- ・福島第一原子力発電所の事故による子どものがん増加を含む健康影響を評価し、特に女性と子どもなど、被ばくした全ての人に無料で定期的な総合医療を提供すること（パナマ）
- ・福島第一原子力発電所の事故によって影響を受けたすべての避難者の支援を引き続き尽力すること（サモア）
- ・福島原発周辺に人々が帰還する前に、威圧的な行為や経済的な脅迫なく、国内避難民の安全、健康、権利に関するさらなる科学的証拠の提供に取りかかること（バヌアツ）

「部分的にフォローアップすることを受け入れる」と回答した勧告は2つ。

- ・クリーン、健康、且つ持続可能な環境のための人権を、憲法および法律レベルで取り入れ、自然災害、及びその他の災害による被害者への核放射線の影響に取り組むこと（コスタリカ）
- ・福島原発事故による避難者を国内避難民として認めること、住居、健康、生活、子どもの教育に関する人権を守ることを保障すること（オーストリア）

日本政府はこれらの勧告を実施する義務があり、勧告を出した政府代表者たちもそれを望んでいます。原発事故被災者の状況が依然として深刻であり、国際人権法に反して被災者への人権侵害が続いていることに対し、繰り返し勧告が続いています。例えば、オーストリアは3回連続して被災者救済の勧告を出しています。

日本政府は、国際社会では被災者及び避難者を救済していると公言し、国内では真逆の政策を行なっています。その状態を放置せず、勧告が宝の持ち腐れにならないよう省庁や自治体との交渉、且つ裁判で、国際社会と連携し活用していく必要があります。

## ■国連活動の展望

国連活動は英語が堪能でなくてはならず、日本人には大きな壁の一つになっています。その上、国連活動の全体像はわかりにくく、勧告や特別手続きのために表に出ないところで国内外の多くの方々が動いてくれているから結果に繋がっています。国際NGOと協力関係を築くこと、国際人権の専門家の協力を得ることも重要です。私がジュネーブで活動継続できたのは、国内外からたくさんのサポートがあったお陰です。国際社会と連携し、市民がそれぞれの得意分野を活かし、役割分担して協力し合い、この地球を破壊しながら弱者をさらに追い詰める日本を変えることができるよう切に願っています。

## より深く学ぶために...

### 武器としての国際人権

日本の貧困・報道・差別

藤田早苗 著

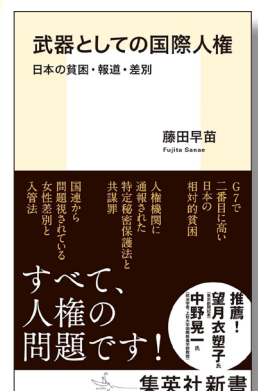
集英社新書 1,100円（税込み）

推薦！

中野晃一氏

『思いやり』に頼らず

『国際人権』の実現を！



## ■ 23年10月～24年3月の活動報告と予定

### ■ 10月

- 5日 第6回宗教者核燃裁判 片岡謁也 輝美
- 7日 センター役員会
- 13日 来館：日本バプテスト連盟公害委員会 6名
- 15日 来館：最上光宏さん久美子さん
- 20日 報告：立教大学大学院 4名
- 21日 第13回センター総会 会場10名、オンライン10名
- 21日 センター学習会 会場10名、オンライン9名
- 28日 来館：ノーマ・フィールドさん他4名
- 29日 報告：自由メソヂスト教団総会 40名 神戸

### ■ 11月

- 1～4日 おうえんカレンダー2024 原画展 来場者90名
- 3日 絵本作家・ふしはらのじこさんトーク 40名
- 11日 子ども脱被ばく裁判  
「親子裁判」勝訴を求める新宿デモ 100名
- 18日 センター役員会
- 18日 報告：一般社団法人 食・環境改善機構 野木晃子
- 23日 これ海学習会「どうなっているの 海洋放出?!」  
90名 いわき 片岡輝美 謁也
- 25日 仙台高裁共闘集会 110名 仙台 片岡輝美
- 26日 子ども脱被ばく裁判「親子裁判」  
高裁判決後について意見交換
- 30日 甲状腺エコー検査

### ■ 12月

- 2日 報告：子ども脱被ばく裁判を支える会・西日本
- 3日 報告：第3回3・11を忘れないチャリティーイベント
- 16日 はんげんばつ新聞新年号座談会 片岡輝美
- 17日 子ども脱被ばく裁判 浜通りツアー 21名
- 18日 子ども脱被ばく裁判「親子裁判」仙台高裁判決
- 23日～1月4日 センター休館

### ■ 2024年1月

- 11日 センター役員会
- 20日 報告：真珠の会

### ■ 2月

- 17日 報告：日本キリスト教団大阪教区核問題特別委員会
- 22日 報告：脱原発かわさき市民

### ■ 3月

- 10日 報告：日本キリスト教団南山教会 愛知県日進市
- 11日 報告：日本聖公会東日本大震災13周年  
記念の祈りと講演会 仙台
- 15日 センター学習会 講師：牧内昇平さん  
※特記なき「報告」は片岡輝美が担当

## 食品の放射能検査をしてみませんか？

当センターでは、食品の放射能検査を無料で受け付けています。スウェーデン・ガンマデータ社製の放射能測定システム GDM15 により、セシウム 134 とセシウム 137 を測定することができます。

自家栽培のお米や野菜、釣った魚、いつも購入している食品など、気になるものがありましたら放射能測定をし、数値で確認してみませんか？遠方にお住まいの方でも郵送対応しています。食材により、ご自身での下処理が必要な場合があります。

ご希望の方は、まずメールにてご連絡ください。

## ■ 2023年9月～12月の感謝報告 ■

年会費および協賛金をお届けくださった方を記載しています。感謝申し上げます。特記なき教会や教区は、「日本基督教団」です。記載漏れなどがありましたら、ご連絡ください。9月26日～12月4日の受付分となります。（敬称略・到着順）

### ■ 個人

藤原秀徳、木村啓子、田中暁美、市川真紀、飯沼一元、小野洋子、下川 潤、稲垣悦子、斉藤操子、石川雅子、松田光代、高田順久、中越洋子、寺島順子、小林 休、重松則子、五十嵐 進、河原田美哉子、西川幸作、加藤陽子、合田佳子、島 香美、佐藤久美、小西二巳夫、小西文江、戸枝正輝、渡部政子、佐々木君江、長谷三知子、横山義弘、横山恵子、北野直子、福田正美、白井康之、山口 朗、岡田敦子、飯田瑞穂、飯沼敬子、遠藤浩二、西島光代、富塚元夫、宮崎義章、安藤節子、赤城敬子、佐々木昭代、西尾登美、大関由佳里、多田玲一、福知千恵、矢野寛子、大橋悦子、齋藤久美、岩橋幹也、小寺秀一、長谷川敏夫、小林順子、前川圭子、沖田忠子、五十嵐こす恵、本宮 広、今田かおる、林 京子、馬場由佳子、佐久間 愛、横山幹央、木村愛美、中川 秀、菅野円、右近史江、笛木直子、片岡謁也、片岡輝美、大竹桃子、高橋真人、高橋容子、高橋真美、山崎知行、行本宏子、中嶋嗣美、加藤ひろ子、中村光一、牧野正子、大倉一美、武田隆雄、松岡佐和子、藤井良三、渡部里美、田中絹子、大城江利子、野副達司、市川 緑

### ■ 団体

四街道教会婦人会、近江平安教会、喜多方教会、ぶどうの木保育園、千里聖愛教会、日本バプテスト連盟公害委員会、甲東教会エリコの会、会津マスクワイア、上岩出診療所、箕面教会、南天画廊”それぞれの宮澤賢治”展、食・環境改善機構、震災支援グループ麦の会、久ヶ原教会、横浜地区婦人委員会、仙台北三番丁教会、京都上賀茂教会

### ■ 支援品

島松伝道所、札幌北部教会、太平こどもの家、中村純子、利別教会、東洋英和女学院小学部

### ■ 署名のご協力に感謝いたします

各団体から署名感謝の言葉が届いています。引き続きのご協力をお願いいたします。

### ■ ホームページをご覧ください ■

センターや関連団体からの情報、MLで代表が発信する「原発核事故関連情報」、ホットスポットファインダーで測定した「放射能測定地図」等を掲載しています。センター NEWS のバックナンバーもご覧いただけます。

### ■ ML（メーリングリスト）に登録を ■

「原発核事故関連情報」やセンター主催の学習会や催し物の案内を一斉配信しています。登録を希望される方は、件名に「ML 登録希望」、本文に氏名を記入して info@aizu-center.org 宛にメール送信してください。

### ■ センター会員募集と年会費納入のお願い ■

10月より第13期に入りました。年会費や協賛金のお振り込みはこちらをお願いいたします。

振込先：ゆうちょ銀行 記号：02270-2  
口座名：会津放射能情報センター 番号：116030